

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072400538		
法人名	株式会社イクロス		
事業所名	グループホーム パル白浜		
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町2927-80		
自己評価作成日	平成24年9月14日	評価結果市町村受理日	平成24年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kan=true&JigyosyoCd=3072400538-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの性格や個性を大切にその人らしい暮らしを支援し利用者の笑顔が1回でも多く見ることができるよう職員は丸となり努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは景勝地の山の中腹に立ち、デイサービスを併設し地域の方々気軽に出入りやすく、ホームの利用者も地域とつながりながら穏やかに暮らせるよう支援しています。各居室からは海が見渡せ、入浴は重度の方もゆったりと温泉の湯を楽しんでもらえるよう設備も整っています。利用者がその人らしく安心して暮らしせるように支援し、一日一回でも利用者の笑顔を引き出す事を職員は目指し様々な取り組みを行い、家族や職員の笑顔にも繋がっています。開設から9年を迎え、地域や行政との信頼関係も築かれており、地域に根ざしたホームとなっています。また、職員は積極的に研修に参加し認知症ケアや身体拘束等について学び、資格の習得やスキルアップに取り組み、管理者は働きやすい職場の環境作りに努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は事業所理念を共有し事業所と利用者が地域の一員として生活できるように努力している	地域密着型サービスの意義を意識した理念を掲げ、利用者や家族が笑顔でいられる事を大切に考えています。職員は、日々のケアの中で利用者の好きな事や喜びになる事を見つけ、楽しみを共有できるよう取り組んでいます。理念の見直しについて職員全員で検討して行く予定です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが、町内会の催しや、小学校等の行事を通じて利用者が交流できるように機会があれば可能な限り出かけるようにしている	自治会に加入し近隣に回覧板を届けたり、地域で出会った方とは挨拶を交わしています。デイサービスの行事や地域の夏祭り、小学校の行事に参加し地域と交流ができる様に支援しています。自治会長や地域のボランティアの方、子供みこしの来訪等、利用者が地域の中で暮らし続けられるように地域とのつながりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方を地域で支える為の支援員養成の実習先として事業所を提供し、地域の人々に利用して頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の日常の様子や、サービスの現状を報告し、委員の方々と話し合ったことや、意見して下さったことは、サービスの向上に生かせるようにしている	会議は2ヶ月に1回、地域包括支援センター職員や家族会代表、家族、地域の代表等の参加の下で開催しています。研修内容や利用者の様子、活動状況や行事報告等を行いながら意見交換をしています。今後、さらに町内会長や民生委員とのつながりを意識し、会議へ参加してもらえるように働きかける予定にしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を十分に取合い、協力して頂ける関係を築いている	町役場へ直接出向き、空状況や実情を伝えたり、施策についてや相談事など密に連絡が取り合える良好な協力関係を築いています。町担当者も気軽にホームを訪れ顔みしりになっています。運営推進会議事録は毎回届けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、社内・外の研修に参加し身体拘束に関する知識を深め、身体拘束を行わないケアに、取り組んでいる 夜間以外の施錠は行っていない	外部研修に参加したり講師を招き内部研修を行い、身体拘束をしないケアについて全職員が周知するように努めて居ます。言葉のかけ方も含め日々のケアが拘束になっていないか具体例をあげながら振り返っています。玄関やエレベーターも施錠せず自由に過ごす事が出来ます。1階のデイサービスとの協力体制も築き、出て行きたい様子の時は職員が付き添っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	最低でも年一回、外部講師を招き社内研修を行い、外部研修にも参加し高齢者虐待防止関連法について学び、虐待が見過ごされないように注意し防止に努めている		

グループホームパール白浜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して権利擁護に関する理解を深め利用者の必要性に応じて地域包括支援センターや社会福祉協議会等と連携を取り活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約について、入所契約の前の段階で不安や疑問点などに十分な説明を行い理解納得された後に、契約させて頂いている 改定等については、御家族の都合に合わせて来所して頂き十分な説明を行い理解納得に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議等で、意見や要望を表わせる機会を設けたり、定期的な介護相談員の訪問を受け外部者に表わせる機会を設けている 来所された時には、意見や要望を表わしやすい雰囲気作りにも努力している	日常的には、面会時や電話で近況報告をしながら意見や要望を聞いています。また家族会や運営推進会議、介護相談員等を活用し意見を聞く機会を設けています。職員は家族の意見が言い易い雰囲気作りにも努めています。終末期の支援や外出についての意見が出され、出された要望や意見は検討して運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時職員の意見や提案を聞き入れ運営に反映できるようにしている	職員からの意見や要望は、休憩時間帯等を利用して常時意見を聞くようにし、管理者は職員が意見を言い易いように雰囲気作りにも努めています。職員から利用者の思いに添った外出支援についての意見やケアに関する意見が多く出され、出された意見は検討しサービスの向上に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当等も設け、資格取得などの個々のスキルアップのためには積極的に協力し、やりがいを感じ、向上心を持ち働き続けられる職場であるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の力量に応じた外部研修に参加する機会を設け、社内研修にも介護職としてスキルアップにつながるような内容を取り入れている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通して交流する機会を作ったり、同業者の実習の受け入れの場を提供することで交流する機会を作っている そこで得た情報、提案、意見などは、サービスの質を向上させるために取り入れるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際、すでに本人からの明確な要望を聞ける状態で無い場合が多いため、家族からの要望等を聞き、周りからの情報収集を十分に行い本人の安心を考えた関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の不安や要望等に耳を傾け家族にも安心して頂けるような信頼関係を築く努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な情報収集を行い、本人の状況を見極め、本人や家族が一番必要としている支援から対応できる努力をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の状態で対応は違って来るが、本人が介護されていると思わなくて済むような支援を行い、共に生活していると感じて頂ける関係になるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族側にも事情があり難しい事が多いが、本人との絆を大切に、途切れかけた絆は修復できるように支援し、共に本人を支えていけるような関係づくりに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで築き上げた生活の馴染みの人や場所との関係が途切れないように、可能な限り支援し続ける努力をしている	以前利用していたスーパーや美容院へ行ったり、ドライブ中に自宅の周囲の風景を見る事もあります。友人や知人の来訪があり一緒にお茶を飲みに行ったり、老人会やデイサービスで知人と会えば声をかけ合い、家族と墓参りに行くなど馴染みの関係が継続出来るように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や個性、感情の変化を把握したうえで、利用者同士が関わり支え合えるように支援している		

グループホームパル白浜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が亡くなりサービス終了となる場合が多く家族との関係も自然と薄れてしまうお見送りに参列させて頂いた後は、何度か来所して下さる以外は、偶然出会って挨拶をする程度となっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定の場を多く設けるようにし、一人ひとりの思いや希望を表情などから理解できるように努めできる限り本人本位の暮らしに近づけるように努力している	入居前に利用者や家族から生活歴や趣味、暮らし方の意向や思いを聞いています。入居後は関わりの中で得た気づきや情報を記録に残しながら思いや意向を把握するように努めています。困難な時は表情や行動、利用者が発した言葉などから思いをくみ取るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できる限り本人からの情報収集を行うようにしている 家族、ケアマネージャーや関係者からの情報収集と合わせ本人のことを詳しく把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの日々の生活から一日の過ごし方、心身状態、有する能力の変化に注意し、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な関係者と話し合い、それぞれの意見を反映し、本人がより良く暮らすことができるよう現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が、利用者や家族の思いや意向を基に、職員の意見を聞いて介護計画を作成しています。モニタリングは3ヶ月に1回行い、3ヶ月から6ヶ月毎に見直しています。変化のある時はその都度見直しを行っています。日々の支援の記録は、職員の気づきや利用者の様子が計画に沿って記録されることで、見直しに活かされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の記録を記載することで、情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かし実践に役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応できる支援を行い場合によっては職員の増員といった柔軟な対応も行っている		

グループホームパル白浜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの訪問で歌や紙芝居おしゃべりを楽しんだり、個々の能力に合わせた避難方法や経路を知ることによって安心して暮らしているよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、家族の希望を大切に、できるだけ家族の協力を得ながら適切な医療が受けられるように支援している	以前のかかりつけ医への受診や歯科受診は家族が対応し、協力医療機関である近隣の総合病院には職員が受診の支援をしています。協力医とは24時間連絡が取れ緊急時の対応も可能です。訪問看護師は週1回訪れ健康管理や主治医との情報交換など連携も図られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で利用者の心身の状態や気づきを訪問看護師に伝え助言又は医師との連携で適切な受診や看護が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療できるように訪問看護師と連絡を取り、利用者の定期受診の際には、医師との情報交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人と終末期のあり方は話し合っていないが、家族とは入所時より終末期の事業所の取り組みについて説明を行い、重度化等で必要となった時には、家族、医師、必要な方々と十分話し合いを行えるよう取り組んでいる	入居時、家族にホームとしての看取りの方針について説明をしています。ホームで対応できることやできないことを伝え、重度化や看取りについて医師が家族に話しています。医師や看護師、職員、家族と共にその人らしい最期を送れるよう一丸となって支援しています。看取りは家族の協力が不可欠と考え、家族も宿泊をして共に支え合う関係を大切にしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低でも年一回の訓練と緊急時の対応に関する研修を行い実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最低でも年一回の訓練を行い利用者と共に参加し個々の力に応じた避難方法や経路を確認している 白浜消防署や自治会にも協力をお願いし、家族との協力体制も築いている	年1回、消防署の立会いの下で、利用者と共に夜間を想定した避難訓練をデイサービスと合同で実施しています。職員は初期消火や避難場所、避難誘導の確認をしています。町と防災協定を交わし地域住民を受け入れる体制を整え地域へ貢献する役割を担っています。地域からの参加は得られていませんが、今後、町会長に声をかけていく予定です。	今後、災害に備え取り組んでいくためにも、自主訓練も含めた避難訓練の回数を増やすことを検討されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの力や性格に応じ声掛けや対応を行っている 尊厳を保ちプライバシーを損ねるような対応にならないように注意している	接遇マナーやプライバシーについて外部から講師を招き研修を行い、利用者の尊厳を守るケアについて意識の啓発と向上に努めています。入室時毎にノックや声かけをしたり、排泄時の声かけは小声で対応する等の配慮をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望で自己決定して頂けるような対応を心がけ、思いや希望を表わせない利用者には表情や仕草等から思いを組み取れるよう努力しできる限り自己決定に近い支援になるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決め事や都合を優先する時もあるが、できる限り本人のペースに合わせた一日を過ごすことができるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みでその日の洋服等を選んで頂き、おしゃれを楽しめるよう支援している 好みを表わせない利用者にはその人に似合うようなものを選ぶように配慮している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みの物を取り入れた献立作りを行い、利用者の力に応じた準備や片づけを行って頂き、できそうな人には、職員と一緒にいけるように支援している	職員は利用者の好みや希望を聞いて献立を立てています。調理の準備や片付けなど、利用者のできる事に携わってもらったり、利用者のできそうな事を見つけて職員と一緒にしています。パーベキューや弁当、外食など食事を楽しめるように支援し、職員も同じ食事を摂り楽しめる雰囲気作りにも努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立を作り、個々に食事量や水分量を記録し、不足している時には、好みのもので補うようにしている その人の体調に合わせて食事の形態やメニューを変更している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの能力に合わせた口腔ケアの支援を行っている		

グループホームパール白浜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄が行えるよう一人ひとりの力や排泄パターンに応じた声掛け支援を行っている	一人ひとりの行動や様子、仕草から排泄と察しトイレへ誘導し排泄が出来るように支援しています。個々の排泄のリズムを職員は熟知しトイレ誘導する事でオムツを外す事ができ、夜間のポータブルでの排泄の習慣を大切にしながら自立に向かうように取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや食物繊維の多い食材を取り入れた献立を作り、体調に合わせて散歩などを行い便秘予防に取り組んでいる 慢性的で頑固な便秘症の方は医師が処方した便秘薬を服用して頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉を引いた大浴場は入浴の曜日や時間帯が決まっているが、決められた中で個々の希望やタイミングに合わせた支援を行っている それ以外の希望には、個浴場を利用して頂くように支援している	入浴は午後より週3回を基本に支援していますが、利用者の状況で午前に入浴する方がいたり、入浴の順番の希望を聞いています。温泉をひいた風呂であり温泉気分を味わいながらゆったりと入浴ができ、袖を使う等入浴が楽しめる様に工夫をしています。無理強いはずせずタイミングを見て声をかけ入浴が出来るように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室や、共有スペースのソファなどで自由に休息を取って頂き、夜間は個々の居室で休んで頂く 夜間巡視の際、室温などに気を配り安心して眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服用している薬について、職員はほぼ理解しており、利用者の力に合わせた服薬支援を行い症状の変化にも注意を払っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	決まった日々の流れの中で、その人の力に応じた役割を担って頂き、張り合いや喜びを感じる事が出来るように支援し、季節に合った行事を行い楽しみごとが増えるように努めている		
		一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に添って外出できるように支援している 身体機能の低下に伴い外出を好まない利用者も多くなっているが、車椅子を利用して身体に負担が掛からないように支援している	日々の散歩や、買い物やドライブを兼ね飛行機を見に行ったり、外食、足湯に出かけるなど利用者の希望に添った外出の支援を心掛けています。季節に合わせた花見や紅葉狩りに出かけたり、バーベキューや行事等の取り組みを活かして戸外で過ごせる機会を作るようにしています。	

グループホームパル白浜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができない利用者が多く、ほとんどの利用者は所持していないが、買い物に行き支払いをして頂いたりしている お金を所持していないと不安を感じる利用者には、家族と相談の上で、紛失しても差しawりの無い金額を所持していただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族や受ける側に迷惑の掛からない常識範囲内で掛けて頂くようにしている 手紙を書こうとされる方は居らず、受け取るばかりであるが、受け取った時は喜んでおられる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上防ぐことのできない点もあるが、利用者が不快に感じるものが軽減できるように、努力している 季節の花を摘み、テーブルに飾ったり、旬の食材をメニューに取り入れたりして季節感を感じれるように努めている	リビングからは山が見え自然に囲まれた環境の中、観葉植物や金魚の水槽などを置き、明るい空間があります。利用者の状況に合わせたテーブルの高さにし、ソファや家具の配置の工夫でゆったりと憩えるリビングとなっています。また、手すりや廊下の足元灯で安全面にも配慮し、温泉を利用した浴室も広く重度化にも対応が出来る設備が整えられています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間やローカにソファを置き自由に使用して頂けるようにしているテーブル席では身体的なことや、気の合うもの同士で過ごせるように気を配っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は利用者の住み慣れた形に近づくように畳を引いたり、使い慣れた家具を持ち込んで頂いたりし、その人の部屋として居心地良く暮らせるよう家具の配置なども工夫している	自宅で使用していたベットやソファ、家具等を持ち込み、配置などを家族と相談し決めています。家族の写真を飾り、趣味の品々に囲まれた中で、その人らしく安全に安心して過ごせる居室となるように工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の一人ひとりのできることを理解し、その人の力に応じた行動ができるように工夫し、安全に過ごせるように注意をしている		